

2026年6月期

決算説明資料

前田工織株式会社

東証プライム:7821

目 次

1. 2026年6月期 決算の概要		3
2. セグメント別決算概要		11
3. 2027年6月期 業績予想		16
4. 当社グループの事業環境と対応		24
5. 成長戦略としてのM&A		40
6. MDKグループ中長期ビジョン グローバルビジョン∞ -PART II-		45
7. 会社概要		50



1 2026年6月期 決算の概要

2026年6月期 決算の概要

- 中期経営計画「グローバルビジョン∞ -PART II-」3年目で、期初は増収・減益の計画としていたが、最終的にはすべての項目で過去最高の業績となった。

要因 ①前期の2件のM&Aによる業績貢献 ②為替の円安の進展
③外部環境の変化に対応した施策展開 ④営業管理体制の浸透 等

- グループ各社において、原材料・燃料価格高騰を想定した「販売価格の見直し」、
「購買部門の強化による原材料の安定調達」を徹底した。
- 株主還元策の一環として、期末配当において増配を予想。
(年間1株あたり28円⇒30円)

決算ハイライト

過去最高

売上高

71,389 百万円

通期計画
達成率105.8%

過去最高

粗利益

26,541 百万円

前期比
+11.6%

過去最高

営業利益

12,033 百万円

通期計画
達成率109.4%

過去最高

EBITDA

15,737 百万円

通期計画
達成率107.1%

過去最高

経常利益

12,892 百万円

通期計画
達成率117.2%

過去最高

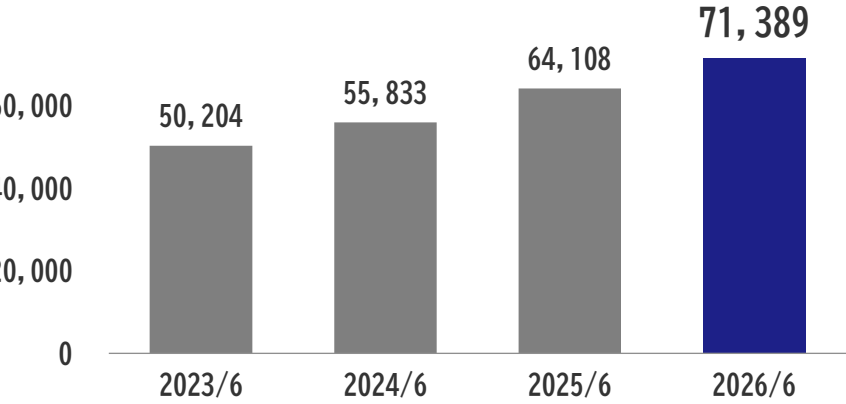
当期純利益

9,571 百万円

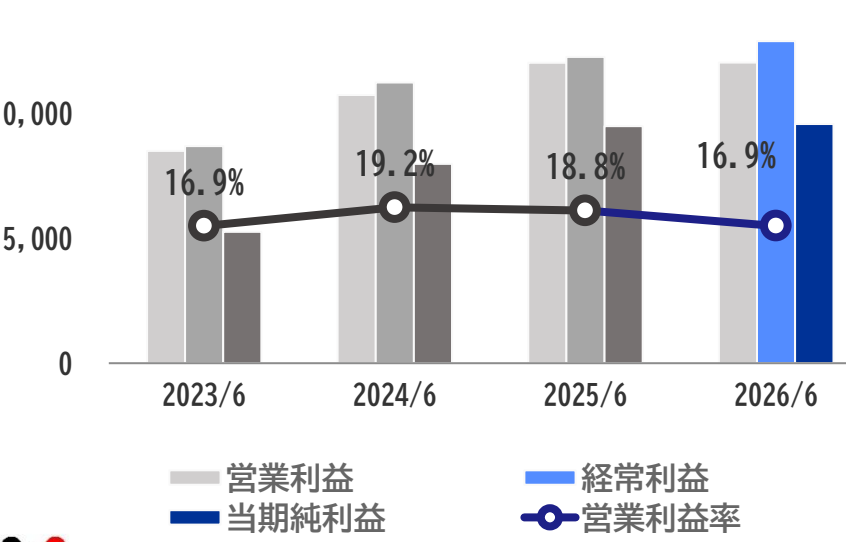
通期計画
達成率125.9%

連結決算サマリ

売上高



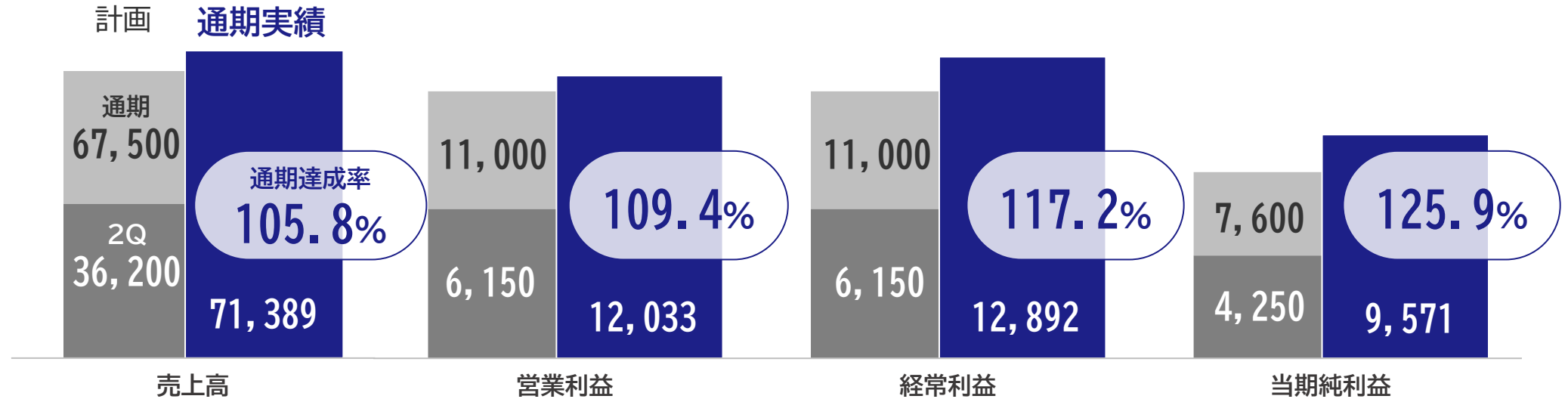
利益



	2025年6月期		2026年6月期		
	実績	売上比	実績	売上比	増減率
売上高	64,108	—	71,389	—	11.4 %
営業利益	12,026	18.8 %	12,033	16.9 %	0.1 %
E B I T D A	15,515	24.2 %	15,737	22.0 %	1.4 %
減価償却費	3,489	5.4 %	3,703	5.2 %	6.1 %
経常利益	12,259	19.1 %	12,892	18.1 %	5.2 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,489	14.8 %	9,571	13.4 %	0.9 %



計画と実績値との比較



2026年6月期		実績	通期計画	
			計画	通期達成率
売上高		71,389	67,500	105.8 %
営業利益		12,033	11,000	109.4 %
E B I T D A ※		15,737	14,700	107.1 %
経常利益		12,892	11,000	117.2 %
親会社株主に帰属する当期純利益		9,571	7,600	125.9 %

※ E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費 + のれんの償却額

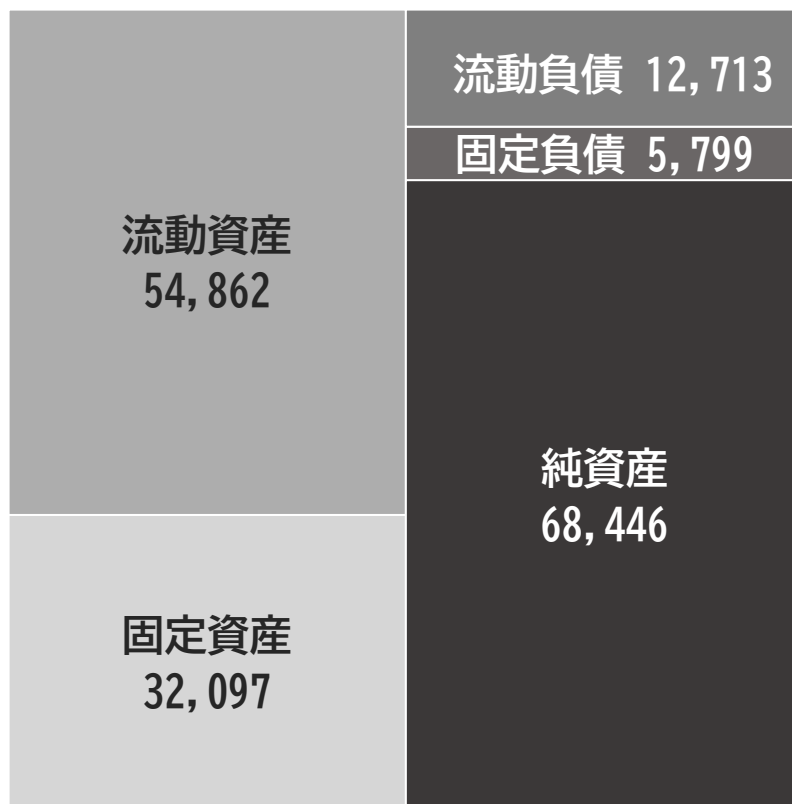
営業利益の増減要因



財政状態

(単位:百万円)

総資産 86,959百万円

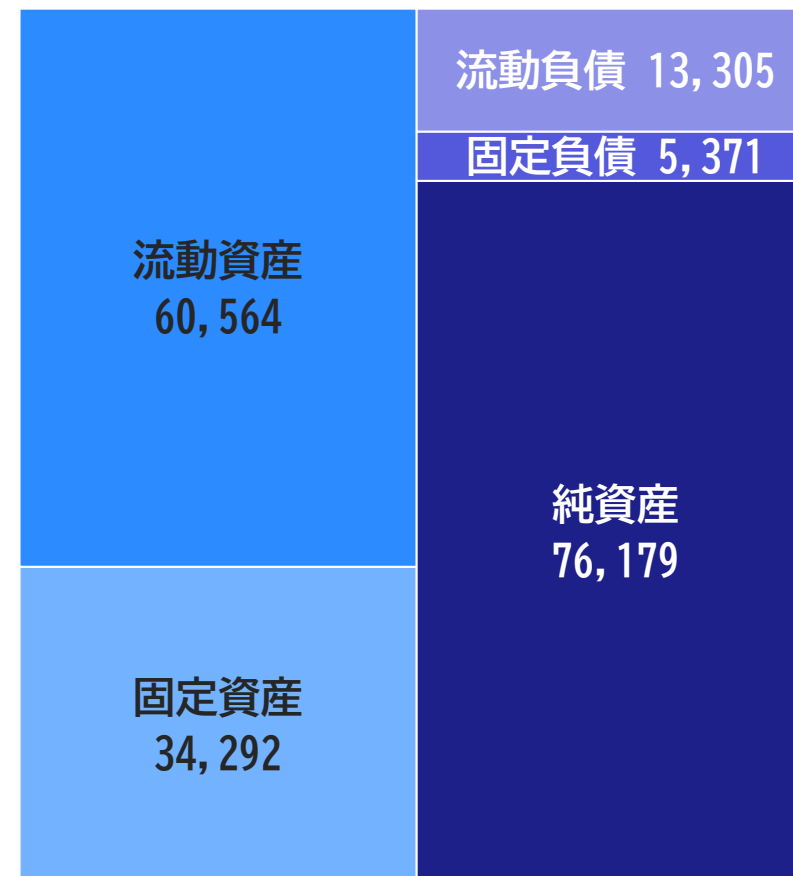


資産

負債・純資産

2025/6 期末

総資産 94,856百万円

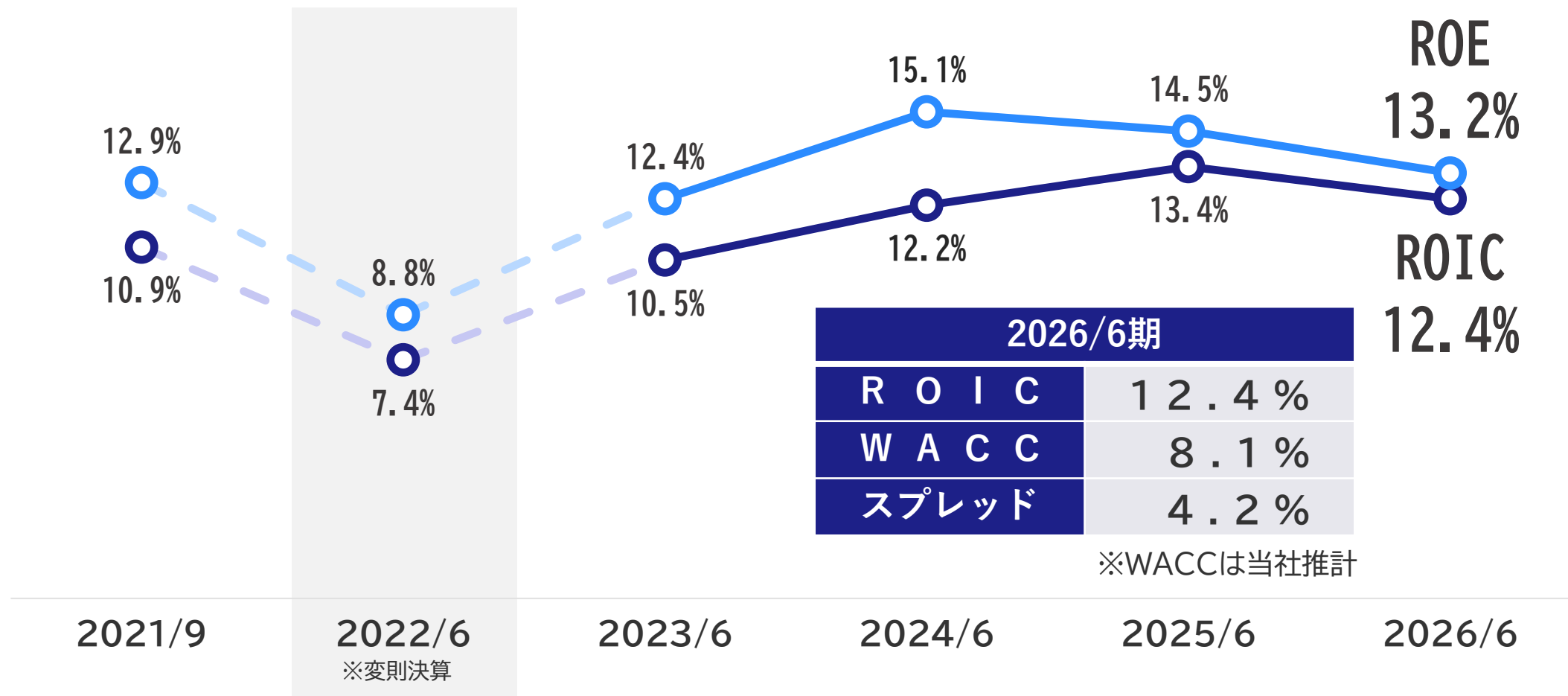


資産

負債・純資産

2026/6 期末

経営指標 – ROE・ROIC推移



※決算期変更の経過期間となるため、2022年6月期は2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間です。



2

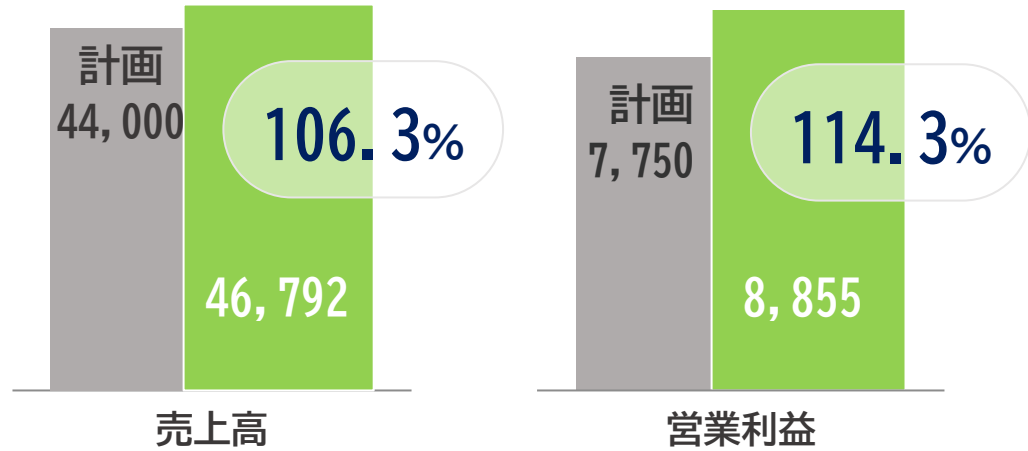
セグメント別決算概要

セグメント別決算概要

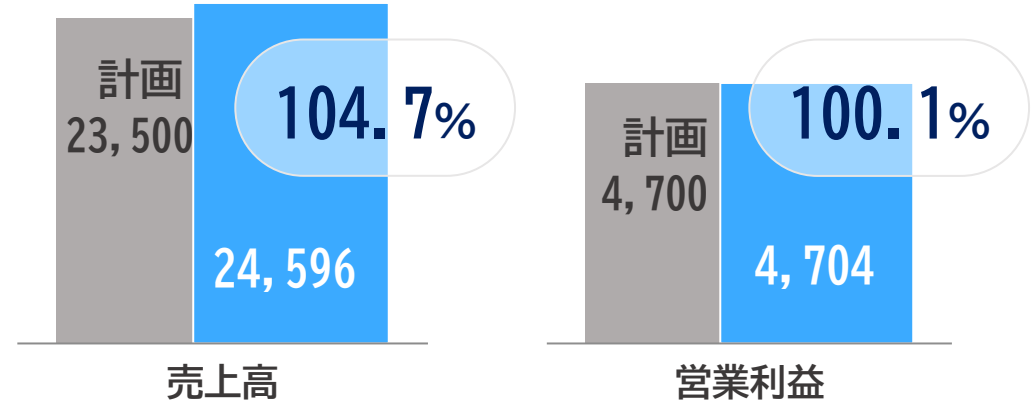
		2025年6月期			2026年6月期			
		実績	営業利益率	構成比	実績	営業利益率	構成比	増減率
売上高	ソーシャル インフラ事業	36,395		56.8%	46,792		65.5%	28.6%
	インダストリー インフラ事業	27,713		43.2%	24,596		34.5%	△ 11.2%
	合 計	64,108		100.0%	71,389		100.0%	11.4%
営業利益	ソーシャル インフラ事業	7,355	20.2%	55.0%	8,855	18.9%	65.3%	20.4%
	インダストリー インフラ事業	6,010	21.7%	45.0%	4,704	19.1%	34.7%	△ 21.7%
	小 計	13,365	—	100.0%	13,559	—	100.0%	1.5%
	全 社 ・ 消 去	△ 1,339	—	—	△ 1,526	—	—	—
	合 計	12,026	18.8%	—	12,033	16.9%	—	0.1%

セグメント別計画に対する達成率

ソーシャルインフラ事業



インダストリーインフラ事業

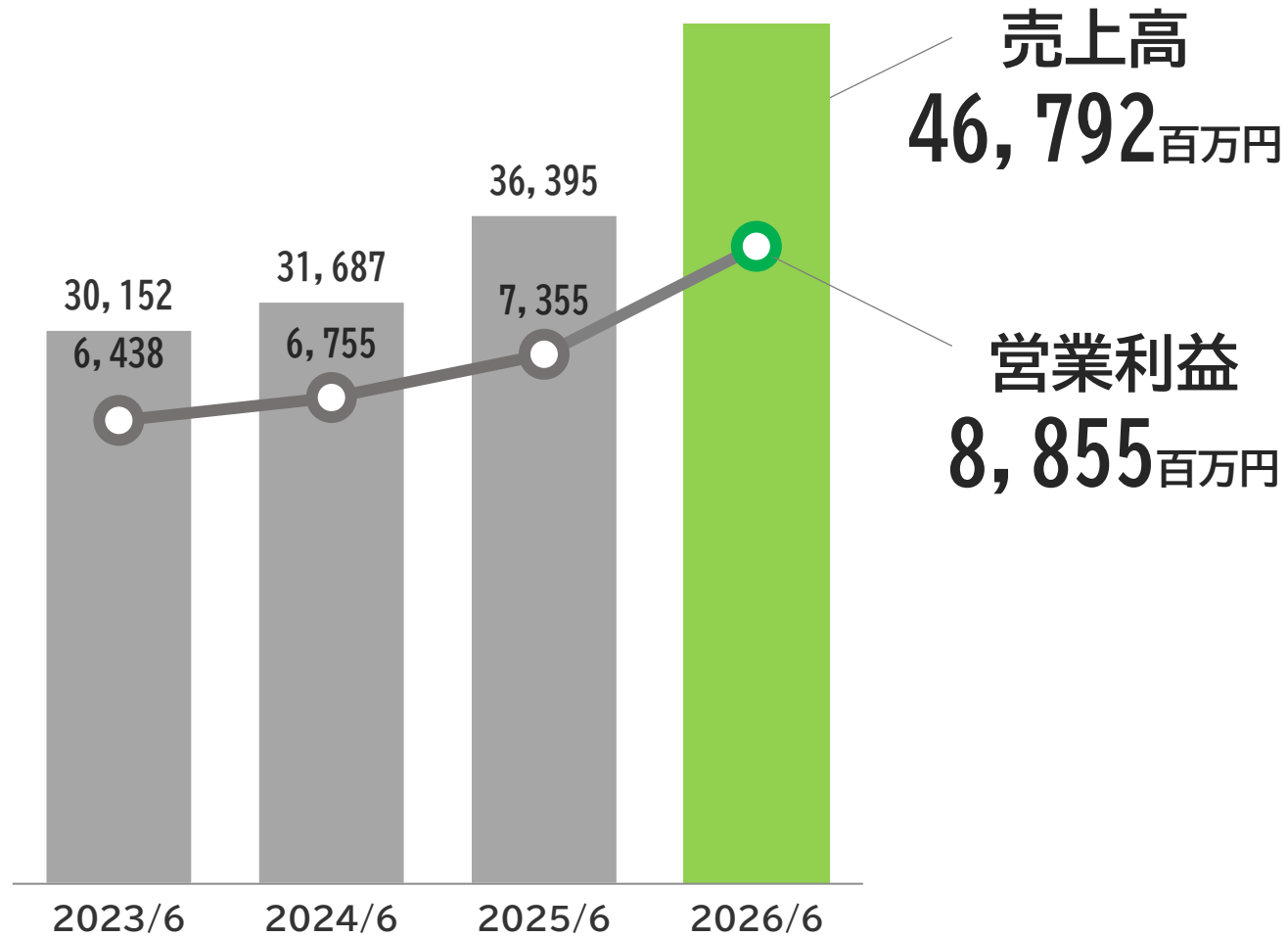


2026年6月期

2026年6月期		売上高	実績	計画		営業利益	実績	計画	
				金額	達成率			金額	達成率
ソーシャルインフラ事業			46,792	44,000	106.3 %		8,855	7,750	114.3 %
インダストリーインフラ事業			24,596	23,500	104.7 %		4,704	4,700	100.1 %
全社・消去							△ 1,526	△ 1,450	—
合計			71,389	67,500	105.8 %		12,033	11,000	109.4 %

セグメント別業績概況－ソーシャルインフラ事業

プラス要因

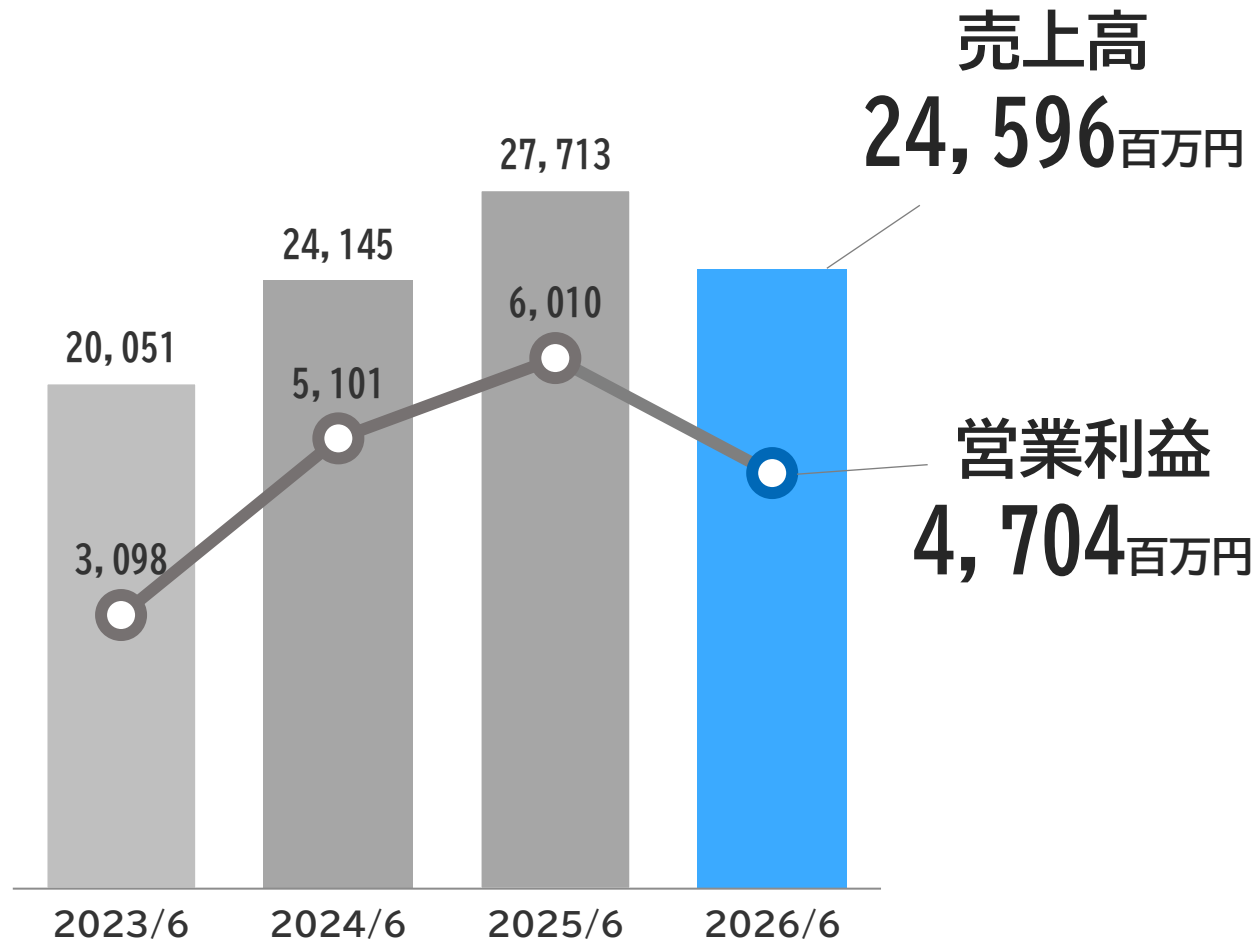


- 主力の土木資材事業は、全ての製品分野で計画を上回る実績となった。特に、国土強靱化事業・防衛関連事業は大型プロジェクトもあり順調に伸展した。
- 子会社でも「前田工織産資」、「未来のアグリ」を中心に好調に推移した。
- 中東情勢の先行き不透明感を背景に、販売価格の見直しも浸透しつつある。

マイナス要因

- 「不織布事業」と子会社の「釧路ハイミール」は期初計画が未達となった。このうち、釧路ハイミールは主力製品のフィッシュミールの販売単価下落による影響が多大であった。

セグメント別業績概況ーインダストリーインフラ事業

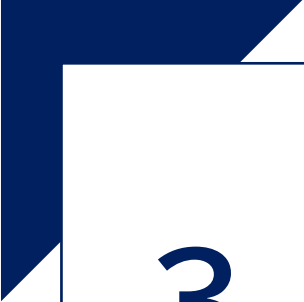


プラス要因

- BBS事業(連結)は、BBSジャパンの国内・海外のOEMが好調で、当初計画比増収・増益となった。
- 新規設備投資(新塗装ライン)が完成した。
11月からの本格稼働による生産性向上を図る。
- 未来コーセンでは、半導体製造向けワイピングクロスが好調で、過去最高の業績となった。今後も新商品開発・上市により業績拡大を図る。

マイナス要因

- BBSドイツの業績は、期初の計画通り前期比売上・利益とも大きくマイナスとなった(次期以降の回復が見込まれる)。



3 2027年6月期 業績予想

2027年6月期 通期の見込み

- 中期経営計画「グローバルビジョン∞ -PART II-」の最終年度として、
当初数値計画を上回る実績を目指し、次期の中期経営計画に繋げていく。
- 国の掲げる「地域未来戦略」における
「インフラ整備+防災」、「防衛関連事業」、「半導体」、「GX」等の新たな
需要に沿った事業展開(M&A戦略含む)を実践し、利益率を伴った業容拡大を図る。
- 中東情勢の不透明感による原材料・燃料価格高騰に対抗するため、
①適切な販売価格の設定 ②購買力強化 を全グループで実行する。

新たな営業管理体制の浸透

前田工織グループ 予材管理体制 浸透のポイント

1

将来の案件を
“見える化”

過去の実績から
未来の予測へ



2

予材は全て
社内にオープン

年5%以上の成長
を目指す



3

予材を
正しく資産化

将来を見据えた
戦略的な行動を促進
成果の好循環が回り始める



4

予材を蓄積

短期、長期の営業目標
を着実に達成



導入の効果

- ・ 足元の数字を追う営業からの脱却
- ・ 将来の資産(企業価値)を創出する営業への進化の促進

中東情勢の影響

懸念される影響要因

不確実性の拡大と地政学リスクの高まり

原材料・燃料価格の高騰
による調達コスト増加

サプライチェーンの混乱
による在庫不足、納期遅延

地政学リスクによる事業継続性の低下

為替変動リスク増大

具体的な対応

原材料の在庫積み増し
による実質的な対応

調達先の多元化
により代替ルートを確保済み

BCPの見直しと強化
(中東依存度が低く、影響は軽微)

リスクヘッジの活用
により影響度は限定的

前田工繊グループへの 影響は限定的



NASA衛星画像より

グループ購買統括室の新設

購買方針の決定

グループ全体の購買機能の強化・充実を図る

業績予想(連結)

	2026年6月期 実績		2027年6月期計画			
	2Q	通期	2Q		通期	
			金額	増減率	金額	増減率
売上高	37,904	71,389	38,400	1.3 %	73,500	3.0 %
営業利益	7,175	12,033	6,500	△ 9.4 %	12,500	3.9 %
E B I T D A	8,920	15,737	8,600	△ 3.6 %	16,600	5.5 %
経常利益	7,859	12,892	6,700	△ 14.7 %	12,900	0.1 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,406	9,571	5,300	△ 2.0 %	9,600	0.3 %

業績予想(セグメント別)

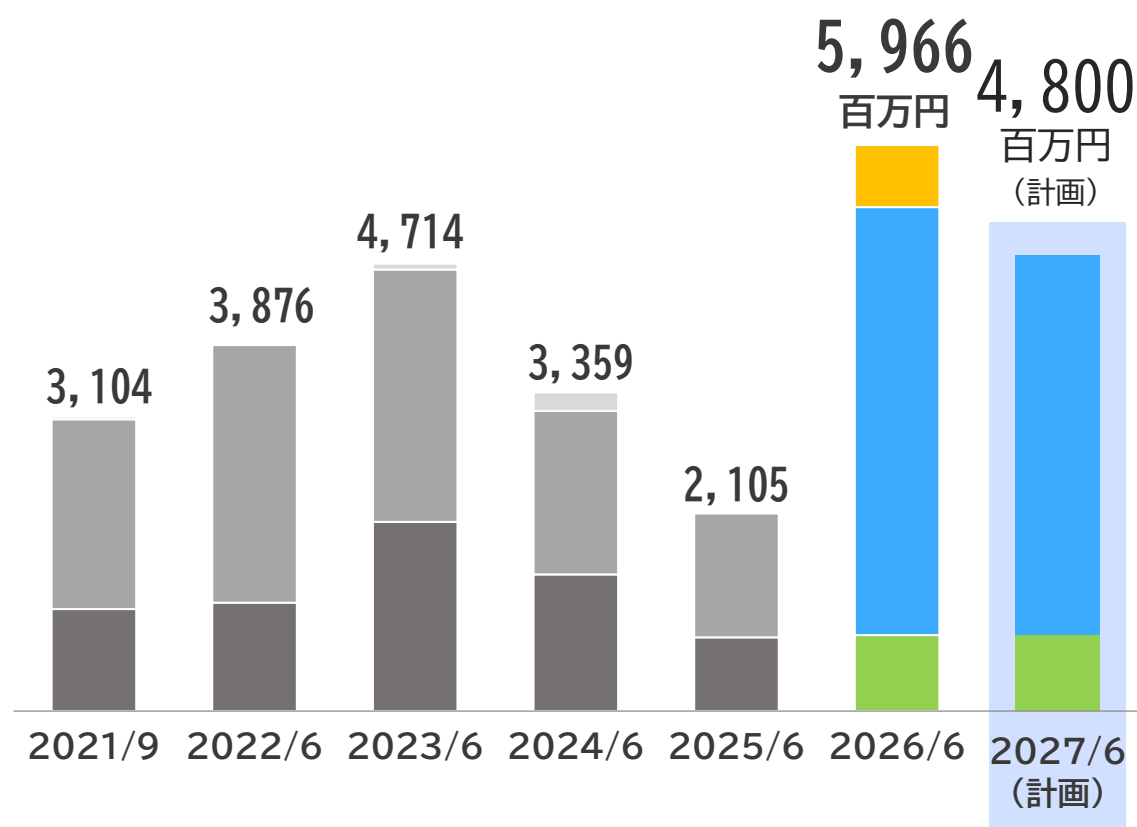
		2026年6月期 通期実績	2027年6月期	
			通期計画	増減率
ソーシャル インフラ事業	売上高	46,792	47,000	0.4%
	営業利益	8,855	9,300	5.0%
インダストリー インフラ事業	売上高	24,596	26,500	7.7%
	営業利益	4,704	5,000	6.3%
全社・消去	営業利益	△ 1,526	△ 1,800	—
合 計	売上高	71,389	73,500	3.0%
	営業利益	12,033	12,500	3.9%

設備投資額・減価償却費予想

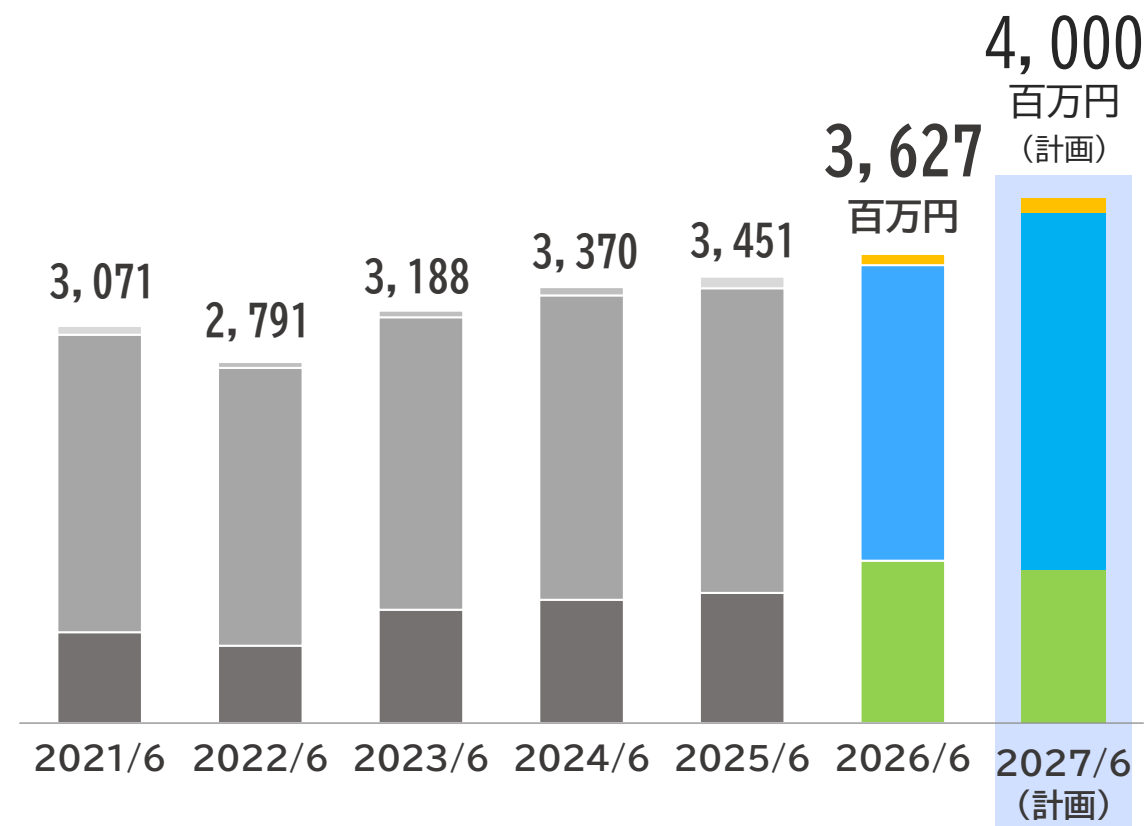
(単位:百万円)

■ ソーシャル
■ インフラ事業
■ インダストリー
■ インフラ事業
■ 全社
■ 全社

設備投資額



減価償却費

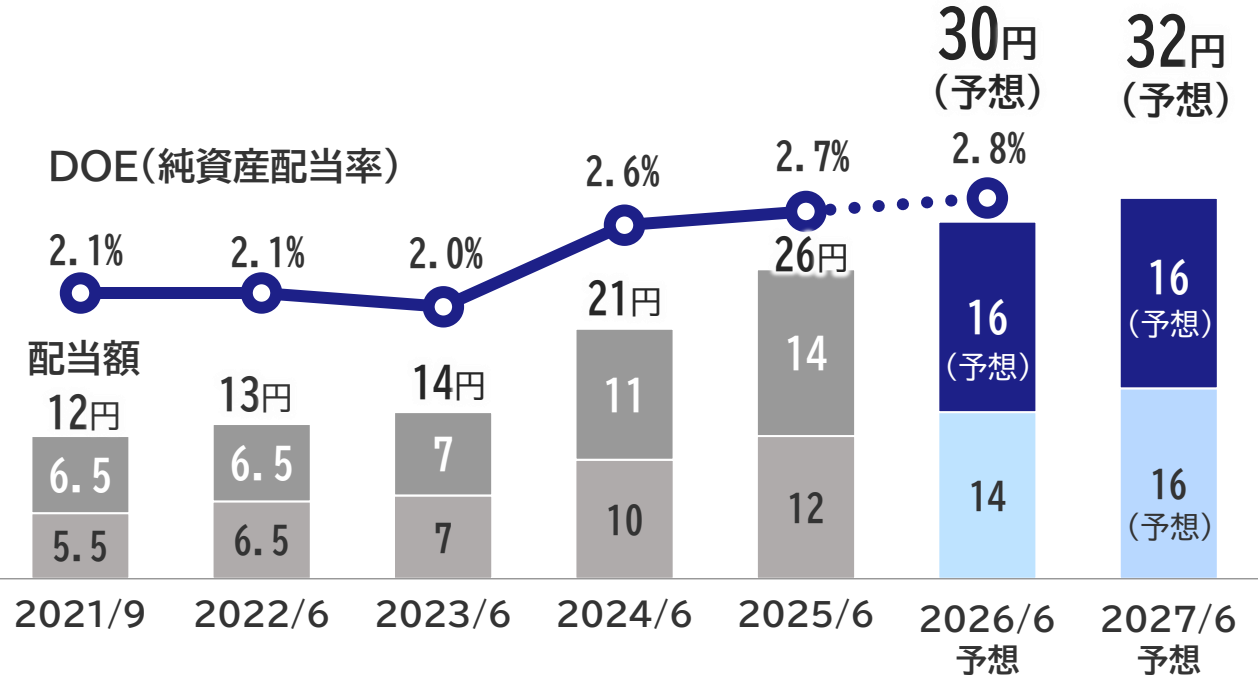


※2022年6月期は2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間です。

配当政策

株主還元策に関する基本方針

- ① **累進配当**の継続
上場以来、累進配当を実施
- ② 剰余金の配当率
主要指標：**DOE(純資産配当率)**
…当期純利益の変動が大きいため



※1 : 2022年6月期は2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間となります。
※2 : 2024年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2024年6月期以前の配当額は、株式分割の影響を考慮して記載しております。
※3 : 2026年8月7日付で配当予想を修正しております。



2026/6期

中 間 14円 (前年比+ 2円)

期 末 予 想 16円 (前年比+ 2円)

通 期 予 想 30円 (前年比+ 4円)

2027/6期

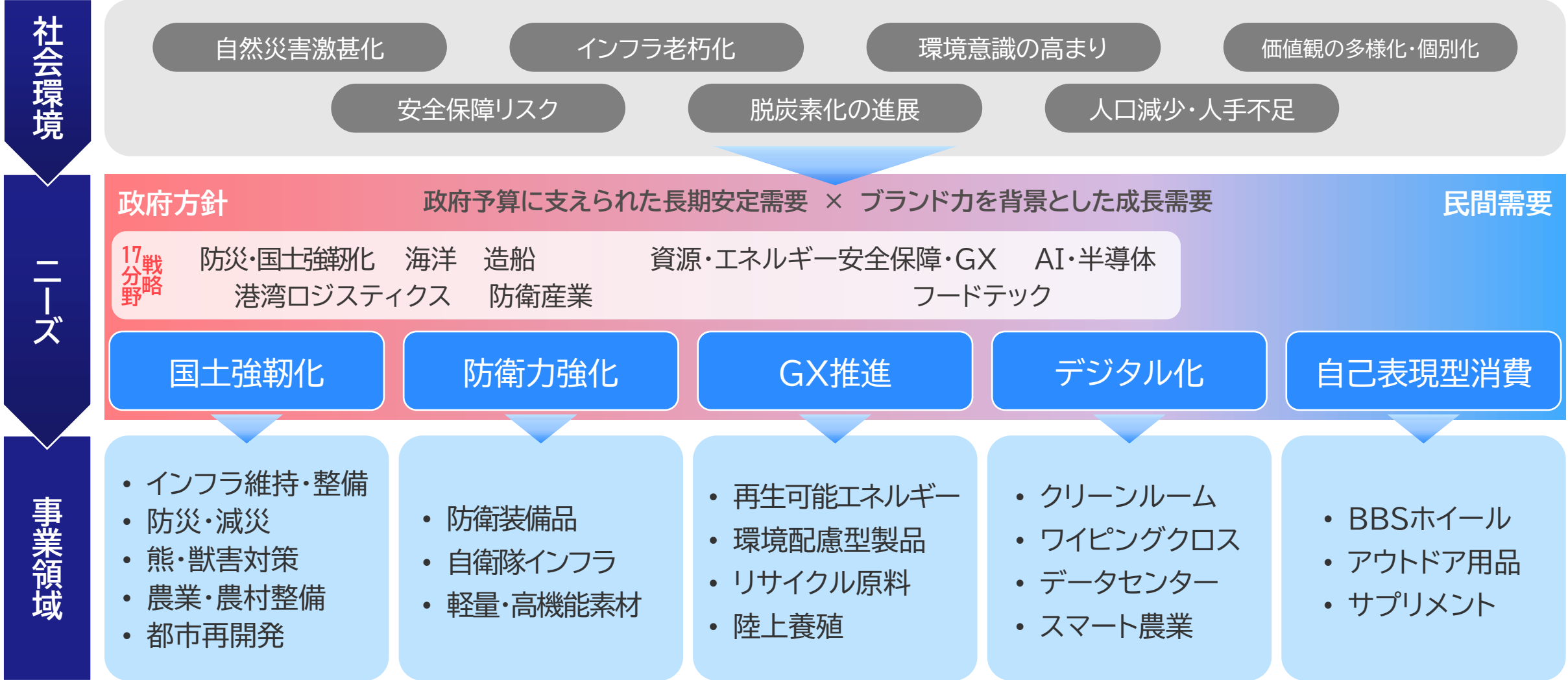
中 間 予 想 16円 (前年比+ 2円)

期 末 予 想 16円 (前年比± 0円)

通 期 予 想 32円 (前年比+ 2円)

4 当社グループの事業環境と対応

当社グループを取り巻く事業環境



国土強靱化、防災、災害復旧

国土強靱化実施中期計画の概要

強靱化のペース加速

事業年度：2026～2030年度



防災対策 新たな段階へ

「本気の事前防災」への取り組み

2010年以降、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震等の大規模災害が立て続けに発生 → **防災庁設置法公布(2026/7/17)**

防災＝事態対処・事前対策

特に重要なのは**事前対策の強化**
(国土強靱化に向けた新たな対策事業の編成)

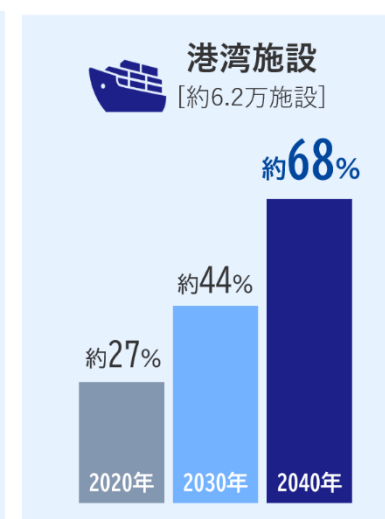
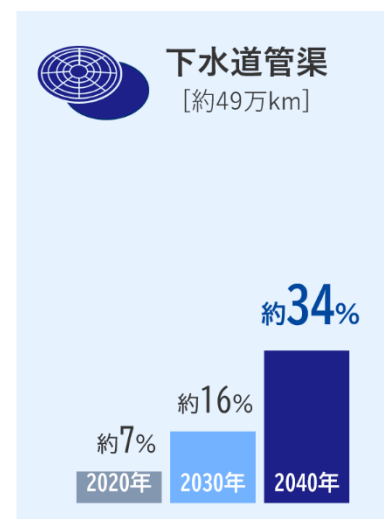
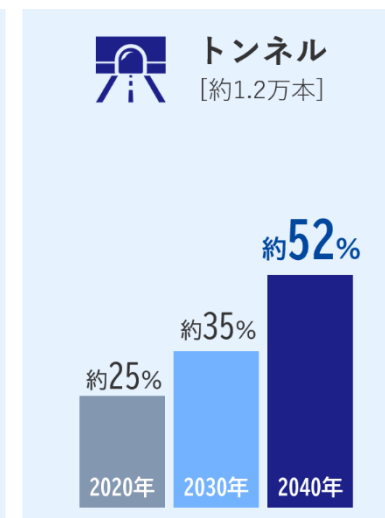
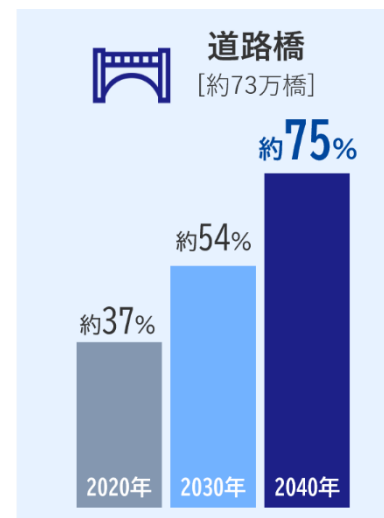


前田工繊グループも
急激な変化に対応した強固な組織
を創っていく



ご参考

建設後50年以上
経過するインフラの割合



国土交通省資料より作成

インフラ整備 災害復旧

災害復旧・道路再整備において被災インフラの早期復旧に貢献

令和8年度道路関係予算配分額(事業費)

直轄事業	1兆4,599億円
補助事業	8,608億円
その他	直轄道路に係る 災害復旧事業費36億円

国土交通省道路局都市局「令和8年度 道路関係予算配分概要」より作成



耐候性大型土のう 「ツートンバッグ®」

- ・ 災害復旧事業における応急仮工事・本工事实施のための仮設工事等に適用
- ・ 台風や大雨による自然災害の復旧工事ほか、道路工事中の土留め等でも効果的に使用可能



クマ・獣害対策（未来のアグリ）

「人を守る」獣害対策を支援

「クマ対策支援チーム」創設

課題



- ・ 学校、公園などの施設管理が急務
- ・ クマ対策の十分な知識がない…

支援チーム



獣害対策のノウハウを活かし、
クマ対策に特化したサポートを提供

クマ撃退製品の販売

熊撃退スプレー「熊一目散」



Webサイトに クマ対策特集ページを開設 （クマ対策情報の発信）



獣害対策製品の
製造・販売



防除柵の
無料診断サービス
（既存柵の改善提案）

防衛インフラ

防衛インフラを支える資材群

防衛施設・空港・港湾など公共性の高いインフラ分野で、当社資材の採用領域が拡大

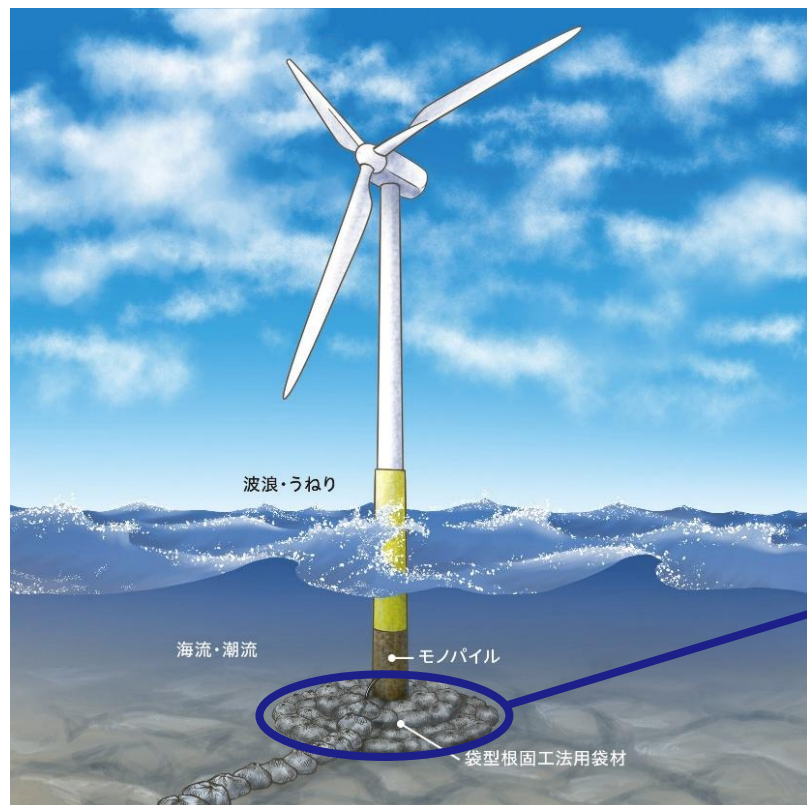
分野		製品群	
空港整備		補強土工法用資材	● アデム®(地盤補強用資材) ● アデムウォール®(補強土壁工法) 
		排水遮水資材	● モノドレン®(排水材) 
防衛施設		緑化防草資材	● アスガード®(防草シート) 
港湾整備		海洋資材	● OKシルトフェンス(汚濁防止膜) ● ネットバッファ工法®(岸壁の長寿命化) 

GX推進

再生可能エネルギー事業への貢献

洋上風力発電

波浪や潮流によるモノパイル周辺の
海底地盤の洗堀・風車の傾斜対策に



袋型根固め工法用袋材「パワフルユニット®」

特長

- 洋上風力向け製品重量 約8t
- ポリエステル繊維を使用
- 極太ラッセル網地で破れにくい
- 錆びによる劣化なし

主な用途

- 浸食対策
- 防波堤のマウンド被覆
- 海岸堤防の裏側の根固め 等



デジタル化の進展

ワイピングクロスの用途と役割（未来コーセン）

高性能ワイピングクロス「テクノワイパー®」



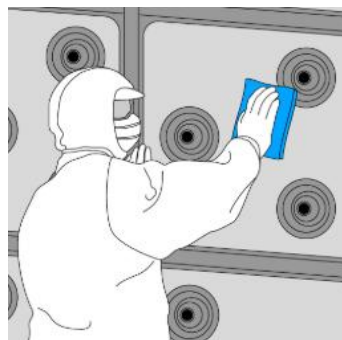
特長

- ・ マイクロファイバー※で微粒子、油汚れにも優れた拭き取り性能
- ・ 高収縮・高密度化による寸法安定性
- ・ 特殊端面カット処理による低発塵性
- ・ 耐薬品性

主な用途

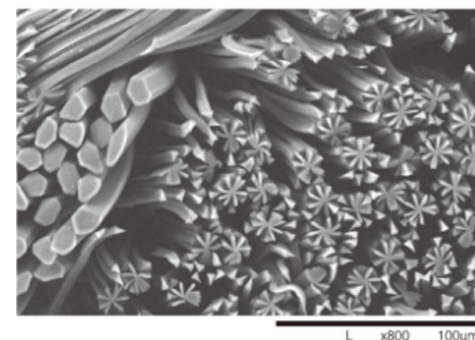


電子デバイス製品等の
製造工程

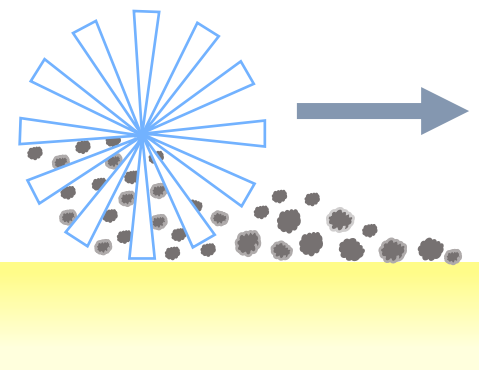


クリーンルーム内の清掃

※マイクロファイバー断面図



マイクロファイバーが
微細な汚れを逃さず拭き取る



自己表現型消費

BBSの事業戦略



需要拡大

国内・海外

塗装技術
向上



生産キャパシティの増強を図り
OEM受注を取りこぼさない体制強化

設備投資

四日市工場 塗装ライン増設

設備投資 50億円

うち15億円
補助金



受注機会最大化

OEM受注
拡大

生産能力
向上



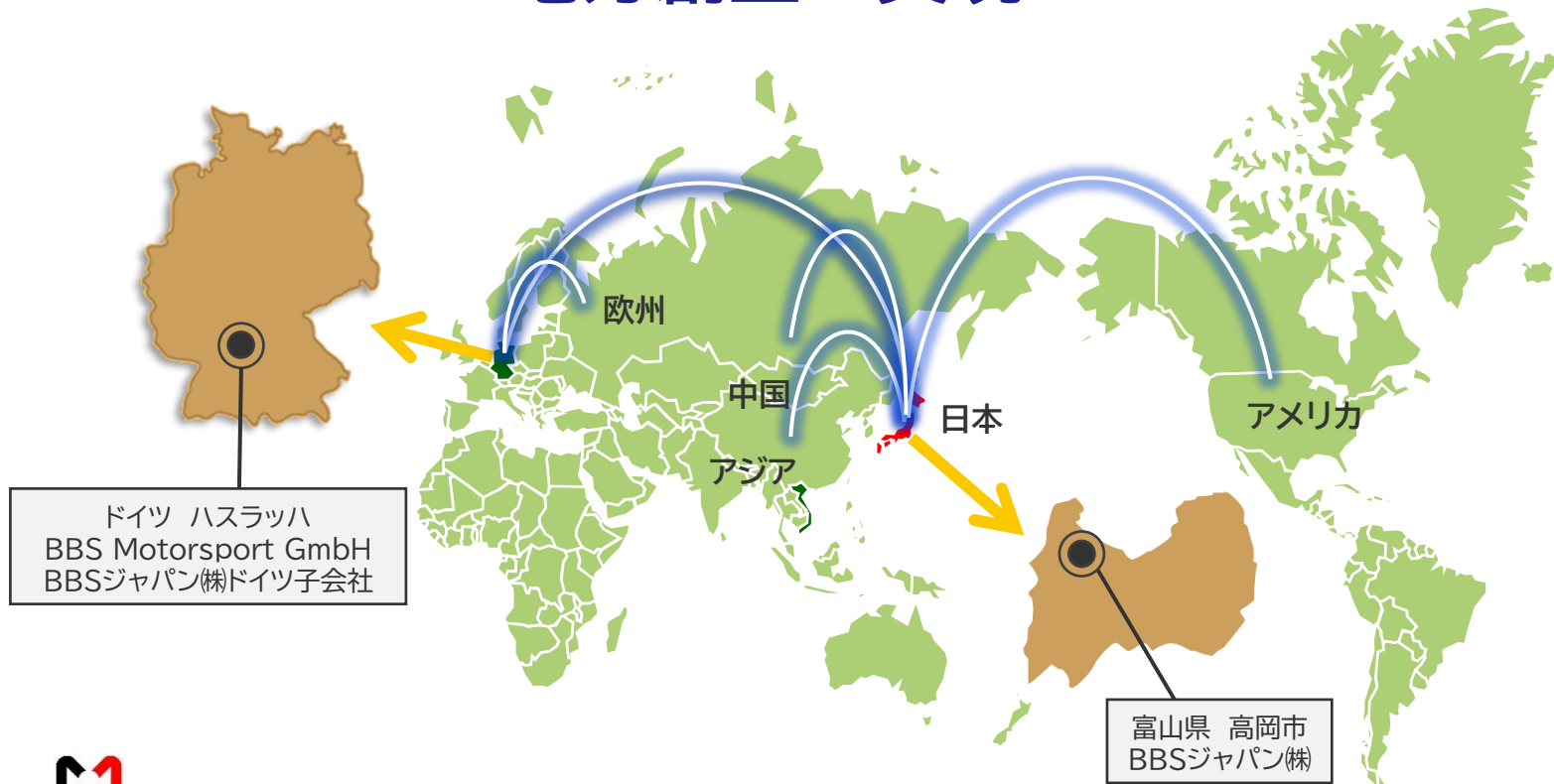
新規OEM獲得のための
新たな設備投資

設備投資 = 業績向上

地方都市から世界へ

モータースポーツで培った鍛造ホイール技術を
市販ホイールに活かし、世界の自動車メーカーで採用

地方創生の実現

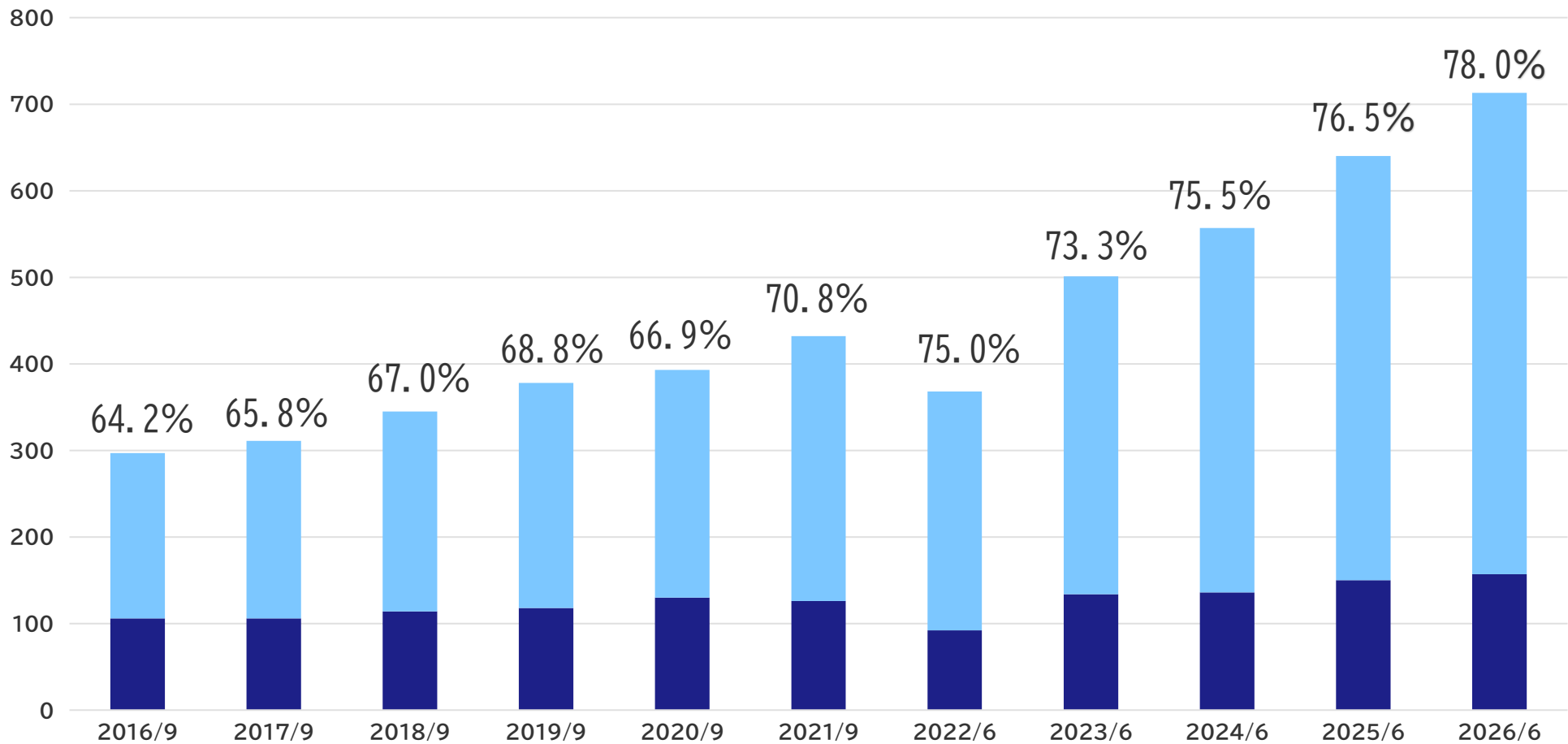


5 成長戦略としてのM&A

連結売上に占めるM&Aの割合

「M&A」が企業成長の重要な役割を担う

M&Aによる売上
従来事業による売上



※2022年6月期は2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間となります。

M&Aに対する考え方

前田工織のM&A

背景

オンリーワンの技術や製品、優秀な人材を有しながらも成長軌道を描くことが難しい地方企業が多く存在



社会課題 の解決

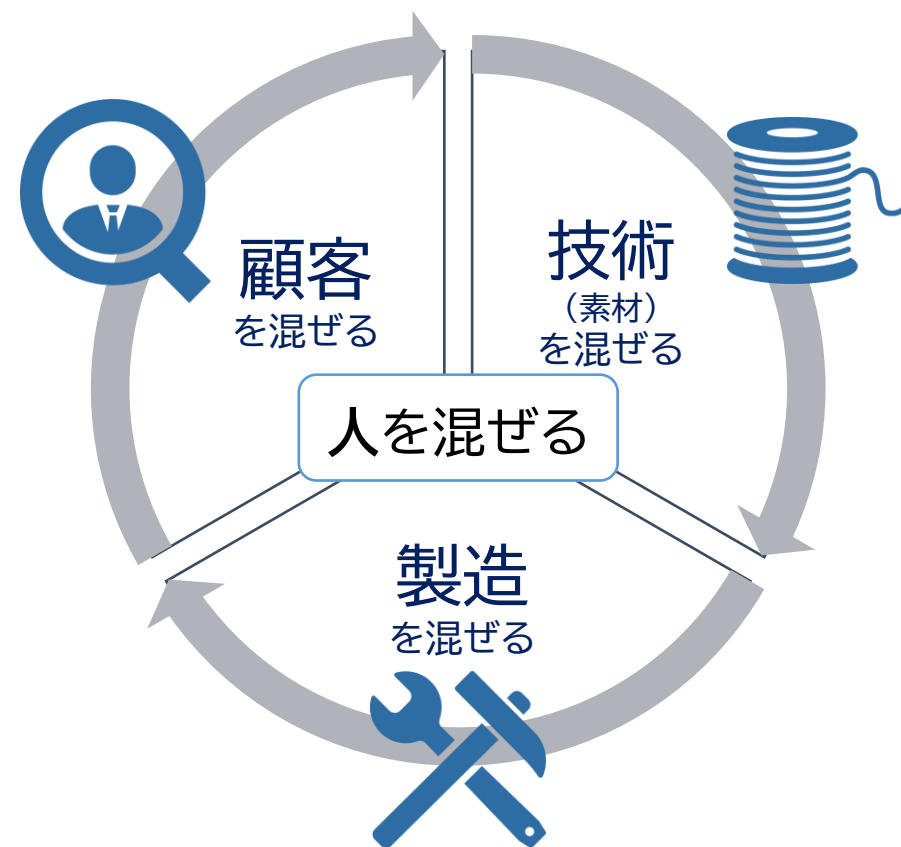
- ✓ モノづくり企業とのM&A
顧客・技術・製造といった経営資源を「混ぜて」成長に導く
- ✓ M&A実施後も雇用を維持
相互にWin-Winの関係を築き、地方の活性化に貢献

変化が激しく、不確実性の高い経営環境のなか
継続的なM&Aで多様な事業を展開



前田工織グループの企業価値向上に向けた
コングロマリットプレミアム を実現

「混ぜる」M&A



M&Aの活用

中期経営計画「グローバルビジョン∞- PART II-」の4か年で
200億円のM&A投資枠を設定、M&Aの実現で成長を加速

M&A方針

Target 原則「モノづくり」の会社、特別な技術・製品がある会社

重点領域

既存事業の強化

既存事業同業

土木・建築資材、鳥獣害対策、園芸用ハウス、ブランド力を有する自動車部品

既存事業周辺

土木工事(法面、橋梁メンテナンス)、土木建築関連・農業関連資材、繊維関連製品

新規事業の創出

新規事業

ニッチトップ企業、官公庁関係向け事業、ヘルスケア、スポーツ、ペット用品

海外

土木・建築資材、ASEAN

PMI シンプルPMI

凡事徹底 × 「混ぜる」

- 生産現場の整理整頓・安全対策
- 適切な設備投資
- 継続的な生産改善活動
- 数値・成果の見える化
- 月次会議体制の整備
- 経営人材の提供

親子関係ではなく
対等なパートナー
として協力関係
を構築

グループの
人、モノづくり、
技術、ネットワーク
を「混ぜる」



※PMI：M&A後の統合プロセス

AI活用によるM&A実行力の強化

M&Aのプロセス

初期検討



トップ面談



意向表明書の提示



デュー・デリジェンス



株式譲渡契約の締結



クロージング



成果

作業工数

検討期間

候補先・提案
の品質

リスク検知力

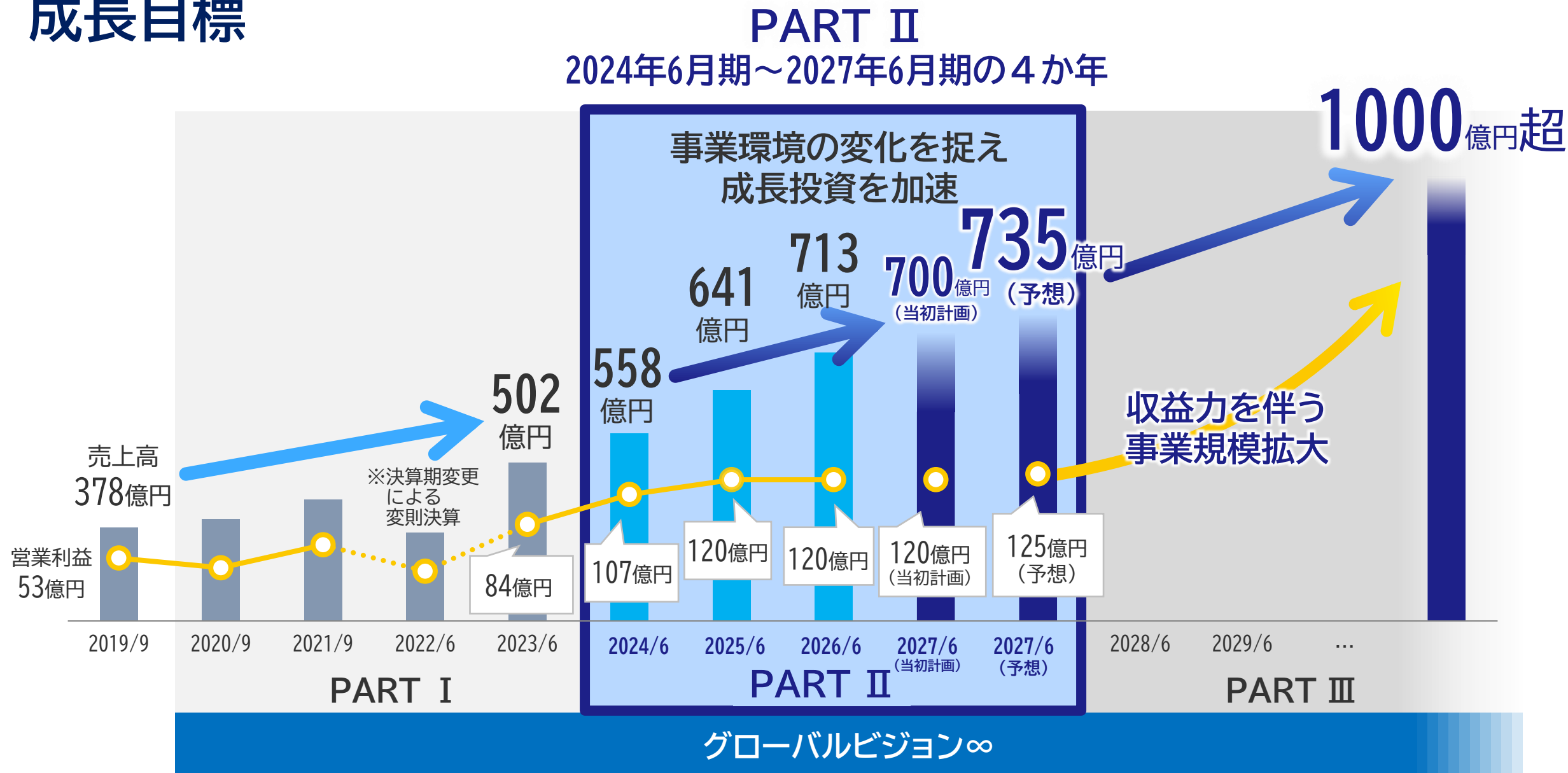
案件処理数



6

MDKグループ中長期ビジョン
グローバルビジョン∞
- PART II -

成長目標



主要戦略

グローバルビジョン∞ 主要戦略(概要)



既存事業の強化と
新規事業進出

設備投資計画 150億円
(4年間合計)



M&A活用による
事業領域拡大

M & A 投資枠 200億円
(4年間合計)



グローバル
ネットワーク拡充

海外売上比率 30%
(2027年度目標)



ESG+H

- 太陽光発電利用拡大
- エンゲージメント強化

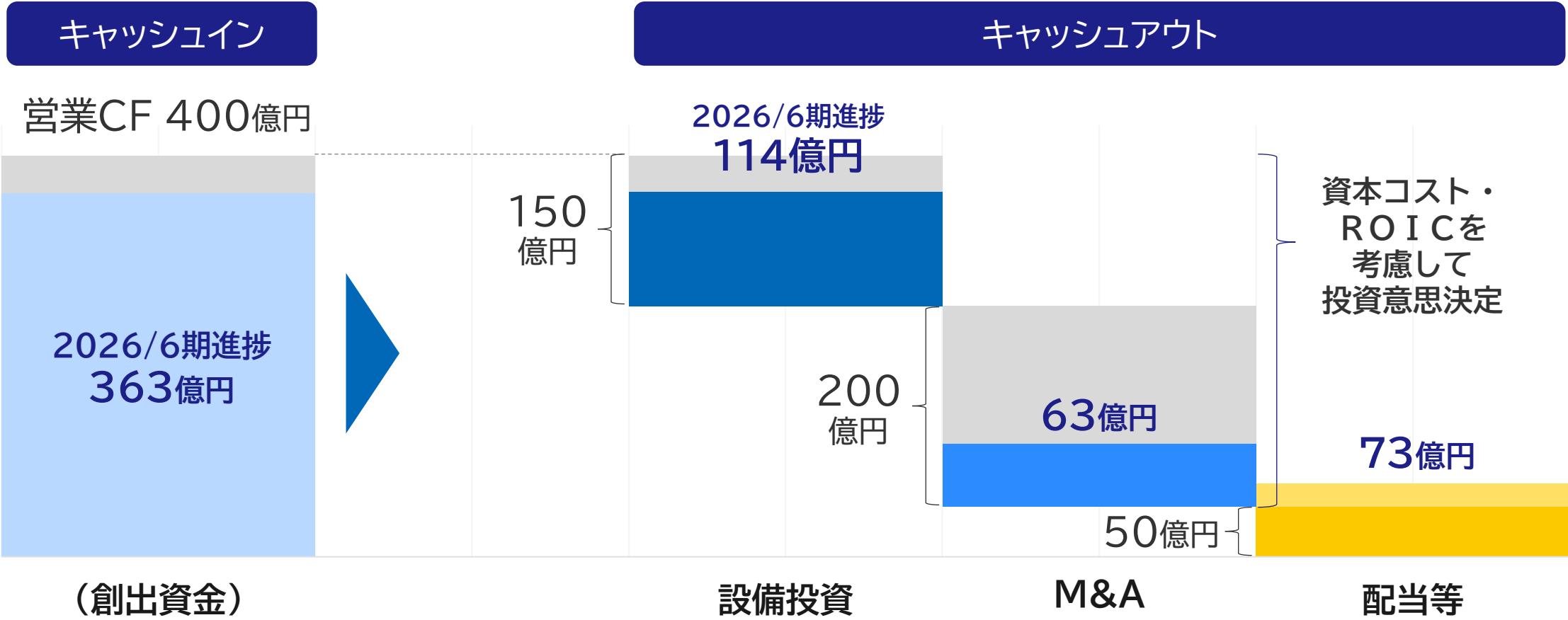
数値目標(2024年6月期～2027年6月期)

	PART I	PART II				2027年6月期 予想 (2026年8月7日公表)
	2023年6月期 実績	2024年6月期 実績	2025年6月期 実績	2026年6月期 実績	2027年6月期 当初計画	
売 上 高	502 億円	558 億円	641 億円	713 億円	700 億円	735 億円
営 業 利 益	84 億円	107 億円	120 億円	120 億円	120 億円	125 億円
E B I T D A	116 億円	141 億円	155 億円	157 億円	150 億円	166 億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	52 億円	79 億円	94 億円	95 億円	80 億円	96 億円
R O E	12.4 %	15.1 %	14.5 %	13.2 %	12 %以上	12 %



キャッシュアロケーション

中計PART-Ⅱ-期間(2024年6月期～2027年6月期)合計額(見込み)に対する進捗





7

会社概要

企業情報

(2026年6月30日現在)

会 社 名	前田工織株式会社		
本 社	福井本社: 福井県坂井市春江町冲布目38-3 東京本社: 東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルA館12F		
代 表 者 名	代表取締役会長 前田 征利 代表取締役社長 前田 尚宏		
創 業	1918年	設 立	1972年
決 算	6月30日	資 本 金	6,422百万円
従 業 員 数	1,836人(役員、嘱託・パート、実習生、派遣を含む)		
発行済株式数	68,080,612株 (うち自己株式 1,394,575株)		
証 券 コード	7821(東京証券取引所プライム市場)		
単 元 株 数	100株	株 主 総 数	5,654名

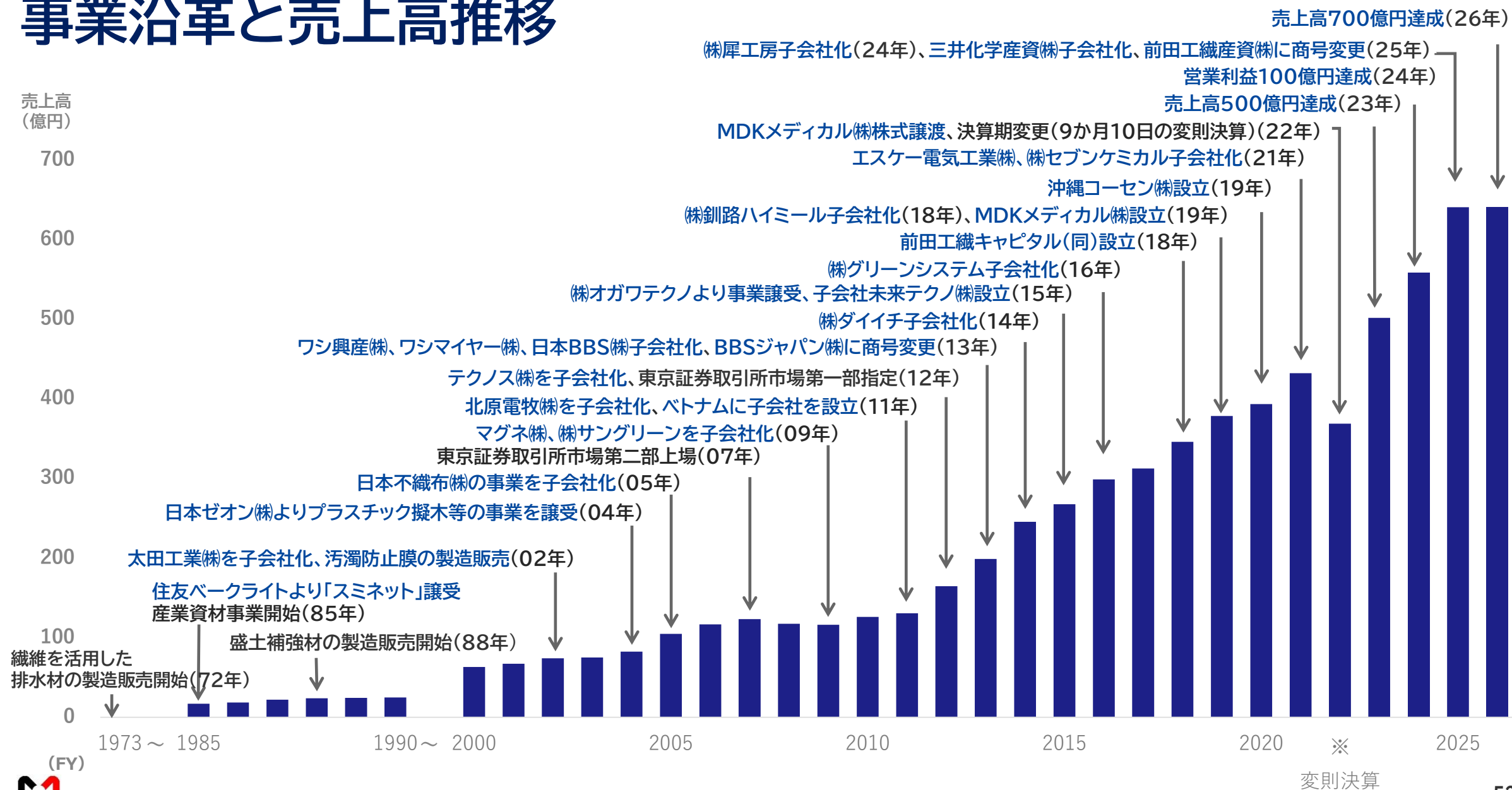


福井本社



東京本社

事業沿革と売上高推移



グループネットワーク

前田工織(単体) 事業所:14拠点/工場:5ヶ所

福井県

福井本社・本社工場

丸岡工場
坂井工場

未来コーセン
本社・福井工場
武生工場

北陸(福井除く)

新潟営業所
金沢営業所

BBSジャパン
本社・高岡工場
四日市工場

未来コーセン(株)
金沢工場

北海道

札幌支店

未来のアグリ
札幌本社
千歳工場
釧路ハイミール 本社

東北

仙台支店
盛岡営業所

未来テクノ
水沢工場・胆沢工場
未来のアグリ
福島本社・瀬上工場

関東

東京本社

前田工織産資

本社
埼玉事業所

未来テクノ 東京本社

セブンケミカル
本社
埼玉工場

BBSジャパン 東京本社
前田工織キャピタル合同会社 東京本社

中部・近畿

名古屋支店
大阪支店
西宮工場
能登川工場

犀工房 本社

中国・四国

広島支店
岡山事務所
四国支店

九州・沖縄

福岡支店
鹿児島事務所

沖縄コーセン



ドイツ

ハスラッハ

ベトナム

バクニン省

BBS Motorsport GmbH
BBSジャパン(株) ドイツ子会社



MAEDA KOSEN VIETNAM CO., LTD.
(前田工織ベトナム有限会社)



● 事業所
■ 工場

健康経営の推進



2026
健康経営優良法人

KENKO Investment for Health

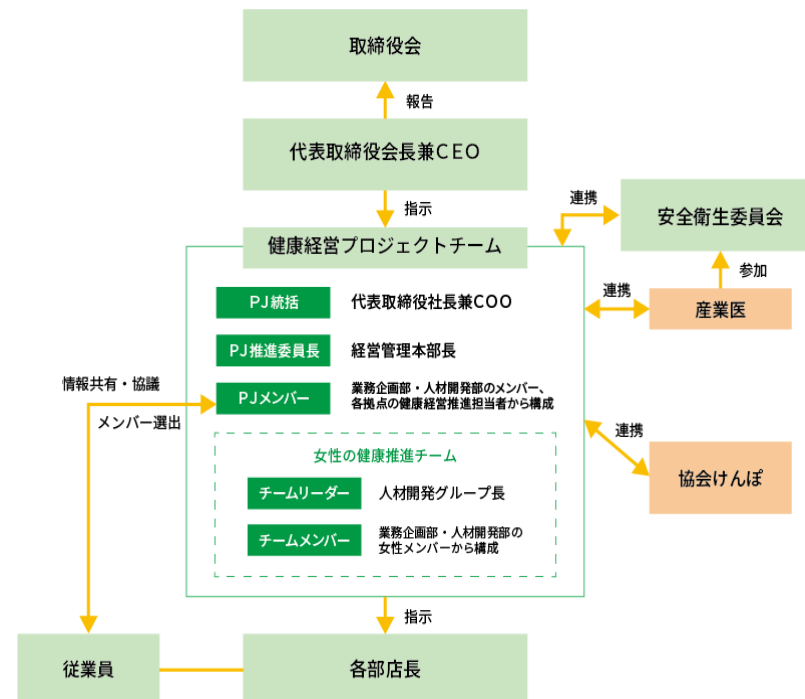
大規模法人部門

健康経営の目的

会社が、従業員の健康維持・増進に積極的に関わり、従業員のパフォーマンス向上を実現することを目指します。これにより、前田工織が、より社会の安心・安全に貢献する企業に成長し、更なる業績拡大を達成することで、企業価値を向上させることを目的としております。

推進体制

- 代表取締役会長 兼 CEOが健康経営推進のトップとなり、関連部署のメンバーおよび各拠点において選出された従業員から成る健康経営プロジェクトチームが、迅速な施策を実行
- 労使の協議の場として、経営層および産業医が出席する安全衛生委員会において、協議・情報共有のほか、各拠点の従業員代表を健康経営推進担当者に任命し、健康経営プロジェクトチームの構成メンバーとして情報共有・協議
- 保険者(協会けんぽ)との連携をはじめ、外部機関も活用し、施策の実効性を充実化



本資料お取り扱い上のご注意

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料を作成するにあたっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想ならびに将来予想は本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご了承ください。

本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先

前田工織株式会社 経営管理本部

TEL:0776-51-9577 / URL:<https://www.maedakosen.jp>